

日本農業の担い手は誰か

4 集落営農の役割



大学周辺の大規模な水田;秋の朝の風景

1

担い手を個別経営ではなく、農村集落にもとめる動き

歴史的経緯から、最初はやや抑制的であった。農政は「ムラ」との間には緊張関係があった

2

農業構造改革を目指す動き

■ 担い手の明確化とその検証

農業政策の対象, 構造改革推進の母体

既存の農業者・組織に加え, 若年農業者や新規参入者

株式会社及びその形態の農業生産法人による参入

■ 集落営農を担い手にすることの検証

引き受けてのなかった農地を面的に一元化する効果

(誰が集落営農を担うのか)

大規模個別経営体との調整

3

なぜ、集落か？

■ 集落段階での積み上げを重視

土地利用や生産の組織化; 地域農業の行方を定める

生産の担い手を地域として確保

農地を集落として有効利用する方向をめざす

■ 集落がもつ話し合い, 調整, 集団的な「地域資源管理」機能を利用

*戦後農地改革, 農業・農村近代化をめざした農業基本法の理念とどう整合するのか? 相反するのでは!!

*「自立する農家」, 「中核的農家」の育成を目指してきた過程では, 「集落」を半ば無視してきた

集落; 食料・農業・農村基本法(1999年)のなかで本格的に登場してくる

4

集落の機能:経済的、資源管理的

1 経済組織的な性格

さまざまな共同労働や調整労働という労働調整機能
かつては「ゆい」、「手間替え」など。現在は集落営農組織として発展。新しい時代の要請によって、集落の「くくり方」はちがってきている

2 地域資源管理組織的な性格

農場に付随した農業施設、水利施設、山林、農道管理作業、etc.

(注)日本農業の構造をどうとらえるか？

封建時代に成立した水利用体系、それに規定される農業構造の上に、近代的な農業経営が成立している(長濱健一郎)
=>今も当てはまる地域が多い

5

集落の機能:生活、規範

3 生活組織

伝統的な相互扶助や文化活動が行われてきた

4 規範組織

ムラの結合度と深く関わる組織。生産や生活全般におよび構成員の行動を律する掟をもつ

*戦後の農政は「集落」を無視するところから出発:農村民主化の観点

しかし、困った時には集落を利用した

相互に牽制する関係

食料不足時代に米穀の供出、稲作の減反

(集落を単位に減反を割当)

相互に扶助する関係

集落営農組織の推進。直接支払制度のもとで

「集落協定」の締結がすすめられる

6

集落営農への期待

■ 農業集落への注目 (農村社会がもつ調整力と圧力を利用)

1)水田転作を定着させる(村落社会を通じて)。

転作地の団地化(分散零細錯圃の限界)

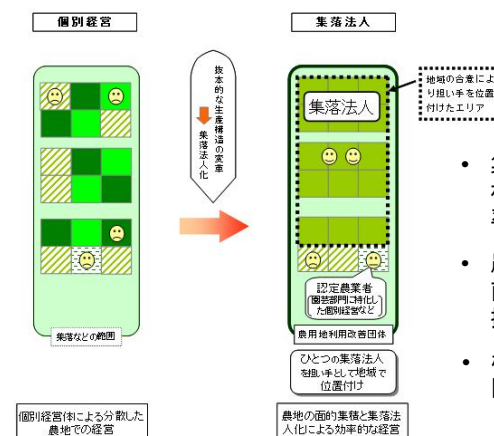
2)農地の流動化(賃貸借による)を集落単位で進める

■ 担い手育成の流れ

個別専業農家の上昇に限られ、企業的農家の育成が遅れる。土地利用や生産の組織化により、地域農業の行方を定める生産の担い手を地域として確保。農地を集落として有効利用。集落がもつ話し合いと調整機能を利用し、団体的な「地域資源管理」機能を発揮

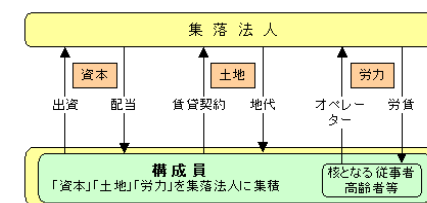
日本農政は農業集落(むら)を政策実施の受け皿として利用してきた歴史がある・・・という期待

7



賃貸契約(利用権設定)によって、農地を法人に集積する

- ・ 集落(1～数集落)の所有と利用を分離し、相当面積を一つに利用集積することで効率的・持続的な農業経営を行う法人
- ・ 農地による非効率な個別完結型経営を見直し、法人による農地の一体的管理に転換
- ・ 機械・施設設備の投資額の削減や労働時間の縮減などの低コスト化



広島県のHPより
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/81/1170808260697.html>

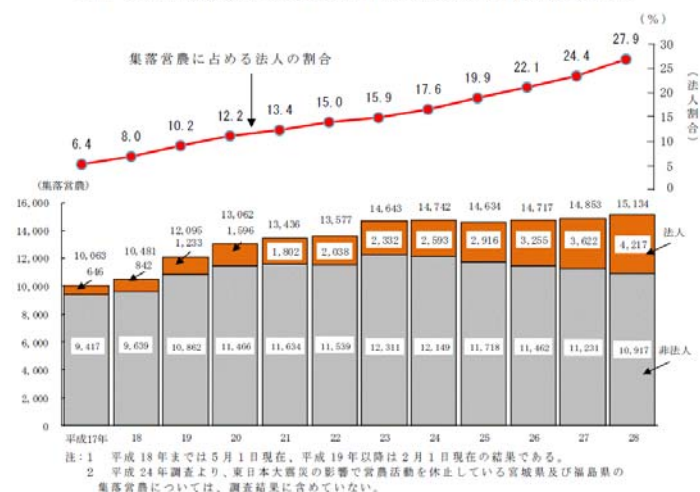
8



東広島市内地区の整った水田(狭い棚田を広げて耕作しやすくした)

10

図1 集落営農数及び集落営農に占める法人の割合の推移(全国)



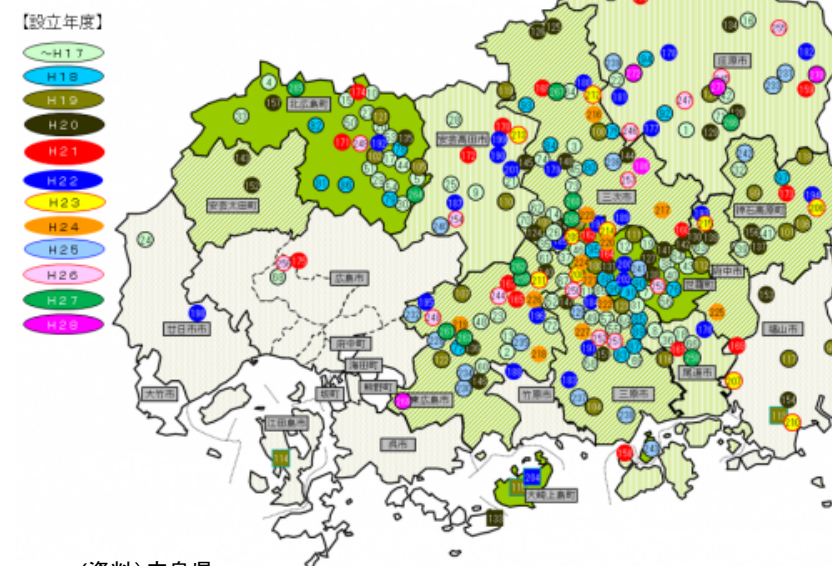
「集落営農」とは、集落を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される営農をいう。

(資料)農林水産省

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/syuraku2016/>

11

集落法人位置図及び市町毎の耕地等カバー率



(資料)広島県

12

集落営農か、個別経営か

- 様々なタイプの集落営農が発展
個別経営か集落営農かという**二者択一ではないが……**
- 集落営農の将来をめぐる意見
 - 1) 集落営農を推進するが、最終的には借地型経営を育成し、その発展を重視する見解(大型農業経営体の発展)
 - 2) 集落営農の活動そのものを重視する見解
(平林光幸の整理, 2009)
- 担い手を育成するのが困難な地域、高齢化・兼業化がいちじるしい地域などでは、集落営農への期待が高い

現在は、集落営農の担い手も確保しにくくなるケースもある

13

集落営農の新たな発展

- 「集落型経営」の位置づけ
集落を基盤に、さまざまな農家が機械・施設の共同利用等を実施する営農形態(担い手は多様, 第三セクター含む)
集落営農 農地の維持・管理, 耕作放棄の防止
- 集落営農の定義はまちまち
農業集落における営農形態のうち、集落など地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が農業生産活動等を共同して行う営農形態や取組の総称
- 構造改革の限界を考慮し、企業の経営の発展だけでは、カバーしきれない分野を担当
広島県は、長年にわたって、集落営農の育成政策を農政課題の中心に据えてきた

14

進化する集落営農

- 政策により、集落営農の組織化、農業経営の法人化を支援する動きが強まる
- ひとつの農業集落で構成する集落営農が全体の74.2%
複数集落をカバーする広域集落営農が増える傾向
例 東広島 ファームうちがファーム志和に合併・改組
- 広域組織化に伴う、「2階建て方式」、の採用
広域組織になるにつれて、単位になる営農集団を効率的に支援するシステムが求められる。2階が、事業・予算計画、経理などの経営を担当し、1階が地域の営農を担う
- 6次産業化をはかるなど、経営の多角化を試みるあ

15

Q 機械の共同利用のメリットについて

- 経営面積が小さい農業経営が、個別で、機械を所有・利用してきたのは、何故か？
- 機械の共同所有・利用は、どのようなデメリット、メリットがあると考えられるか？
- それを進めるための条件は何か？

16

演習問題

- 1 集落営農組織の設立数が増えてきた背景について、説明しなさい。
- 2 集落がもつ資源管理機能に注目し、農業就業者が高齢化し、担い手が不足するなかで、集落営農がどのような役割を果たせばよいか、述べなさい。
- 3 広島県には多数の集落営農がある。条件不利地域の農業振興には欠かせない存在になっている。県等のHPを参照しながら、どのような成果をあげているかを調べなさい。